亞炭香報

創刊号

発行所：一番町 いろは横丁内
亜炭広報社

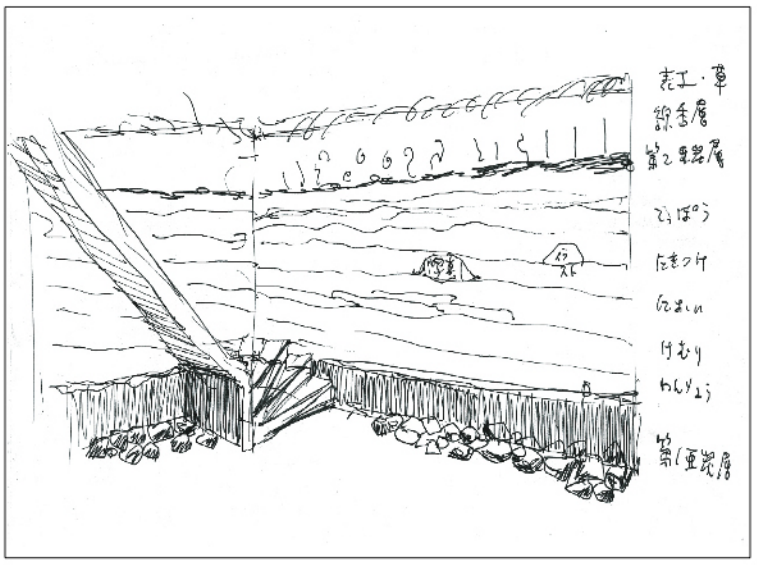
不定期刊

平成二十四年
八月三十日

仙台亜炭 再燃か

今秋にイベント 市内各所で

【仙台＝薄井特派員】戦中戦後の仙台で風呂や暖房の燃料として用いられた「亜炭」が再び脚光を浴びつつある。9月から10月にかけて市内数カ所で開催されるイベント「せんだいマチナカアート2012」のテーマが「亜炭香古学ー足元の仙台を掘りおこす」と決まったためだ。火付きが悪い上、においや煤煙を出すという欠点から、石油やガスに主役の座を譲り、時代の彼方に消えつつある亜炭がふたたび人々の記憶の扉を開こうとしている。（裏面に関連記事）



9月28日のオープンに向けて描かれた亜炭香堂の内装スケッチ。1階は亜炭をふくむ地層のイメージ、2階は埋木細工をテーマとした展示が予定されている（いろは横丁）。

「せんだいマチナカアート」は、身近な場所・人・モノを丁寧に見つめ直してそこに宿る物語や知恵を掘り起こし、新しい視点や楽しみ方を探るアーティストとの協同活動で、毎年秋に市内の数カ所を会場として開催される催し。3回目となる今年は、美術家の伊達伸明氏と作家の都築響一氏がそれぞれ仙台の魅力と向き合い、そのうち亜炭については伊達氏の企画構成により「亜炭香古学」というタイトルで展示と複数のトークイベントが組まれる予定。亜炭の家庭用燃料としての需要は昭和20年頃がピークで、その後急速に衰退したため、おもに七十歳代以上にとっては記憶に残るものだが、それより下、五十歳代以下にとってはほぼ無縁。国が石化エネルギー経済への転換を強力に押し進めた高度経済成長期を境として、世代間で燃料をめぐる生活スタイルに大きな断絶がある。終戦直後のモノのない時期を過ごした世代にとって亜炭とは、家族とともに必死で暮らした日々のなつかしい記憶とつながっており、焚き付けた時の独特のにおいやたなびく煙に郷愁を感じる人は少なくない。また仙台近郊に住む人の目には、その煙が仙台という都会の象徴として映ることもあったという。

「亜炭香古学」では、それぞれの家庭でどのように亜炭と関わっていたかアンケート調査を行い、提供を得た「個人史から見たエピソード」を重ねて往時の人々の営みと生活風景にせまる。

埋木細工も

またその調査では、平行して「埋木細工」についての聞き取りも行なう。埋木とは、亜炭と同じ層から産出する工芸加工用の良質の木質亜炭のこと。江戸時代に下級武士が生活の糧として考案したのが始まりとされ、以後徐々に発展して仙台を代表する工芸品となった。表面の凹凸を岩肌に見立てた置物や文箱、なめらかに磨いた箸置きや茶托、ブローチなどが数多く作られ、漆仕上げの深い黒艶肌はおみやげとしても重宝された。一定以上の世代にとっては、こちらもおなじみのものだが、残念なことに今や最後の工人一人を残すのみとなり、技術の存続が危ぶまれている。若い世代の間で埋木細工を知る人も減り、一時代の仙台文化が消えつつある現状を、所有している実物を市民から借り受け、こちらもエピソードとともに個人史から垣間見る。

展示会場はサンモール一番町東のいろは横丁内。事前に採集した八木山亜炭のかけらや、亜炭の微粉末を配合して開発・制作したオリジナル線香「亜炭香」による香りの体験、さらには線香作りワークショップも開催される。くわしくは仙台市市民文化事業団。電話＝022・301・7405まで。

青葉山産亜炭配合
昭和の香りの
亜炭香
線香作りワークショップ 申込受付中
亜炭香堂

そもそも亜炭って？

石炭に亜(つ)ぐ炭

亜炭とは四百～五百万年前地上に繁茂していたメタセコイヤを中心とする樹木が火砕流などで土中に堆積し、圧力と熱で炭化したもの。科学的には褐炭や瀝青炭などと同じく石炭の仲間だが、石炭にくらべて炭化度が低く、鉱山法上石炭に次ぐという意味から「亜炭」と呼ばれる。国内の亜炭田としては尾張、美濃、新潟、北海道などが有名で、宮城県では三本木町（現大崎市）が最大の産出量を誇った。また仙台青葉山産のものも良質とされたため、竜の口一帯に鉱山が点在し、最盛期には八木山から西多賀に至る亜炭輸送用の軽便鉄道も敷設された。現在国内での採掘は行なわれていない。

竜の口亜炭(全長40cm)

今でもけっこう採れるんだ

広瀬川　亜炭探しピクニック開催

快晴の七月二十八日、愛宕大橋南岸の広瀬川愛宕緑地に、三十代の男女数名が集まった。目的は亜炭探し。宮城県下には、仙台、大崎、丸森、築館など各地に豊富な亜炭層が走っていて、昭和40年ごろまではさかんに採掘事業が行なわれていた。ほとんどは地下数メートルから数十メートルの深さだが、地質学関係者によると、仙台市内では、今回の震災で崩れた青葉城址の東斜面の高所や広瀬川に面した露頭など、今でも黒々とした亜炭層を確認できる場所があり、大雨の後などには足元までころがり落ちてきた亜炭が見つかることもあるという。今回のピクニックでは、そんな出物を求めて川沿いの歩道を1時間ほど散策した。参加者達は淡黄色の凝灰岩に混じる手のひらほどの大きさの黒いかたまりを目ざとく拾い上げては引率員に「鑑定」を依頼、亜炭とわかると声を上げて喜んだ。

参加者の一人佐々木厚さん(34)は「母親から亜炭でお風呂を沸かしていた頃の話を聞いたことがありますが、それが今もこんな簡単に見つかるとは。小さなカケラが一つあるだけで実際には知らない時代の暮らしがとても身近に感じられます」と驚きを隠せない様子。ついひと昔前まで、仙台が足元から生活燃料を自給できた街であった事を再認識する貴重な一日となった。

土の中を観察する亜炭女子

トンネル雑記

「地の底の笑い話」上野英信著

「スカブラ」という単語をご存じだろうか。これは炭坑従事者の中に一定比率出現する「愛すべき怠け者」のことである。彼らは、坑内で働く同僚を横目に大ボラや無駄口ばかりたたいてさっぱり仕事をしない。朝入坑した途端に「何時か見てこよう」などと言って監視員詰所に出向き、さんざん無駄話をして帰ってきたかと思えば今度は「十一時の休憩たい」「昼メシだ」「もう二時じゃ、まだ終わらんかの」といってまた詰所間を往復：。ところが不思議なことに彼を悪くいうものは一人もいないばかりか、彼が休んだときはその坑の作業量がガタッと落ちたという。

高度に社会化されたアリの世界でも、ウロウロするだけでちっとも働かないヤツが一定比率いるという。それを排除しても、残った内の一定数がまた働かなくなる。世の中には、社会構造上機能していないように見えても、人の心の緩衝材となるための特殊能力と、それを行使するべき役割が必要であることを、スカブラは如実に表わしている。

よくもえる
三本木
若瀬◆亞炭

本紙の編集及び「亜炭香古学」開催にあたって下記文献を参考にしました。引用資料として書籍広告風に掲載し、謝意と敬意を表します。

昭和四十六年発行の稀少非売品
石垣 博著
仙台埋木細工の由来
江戸時代から知られた仙台埋木細工の工人村・川内山屋敷在住で、仙台市埋木細工同業会会長も務めたの著者が、資料の少ない埋木細工の発祥から成分組成、加工法、工人の業界話に至るまでについて余すところなく解説。
印刷／株式会社針生印刷製本所
宮城県仙台市伊在白山印刷団地３号
TEL(代) 022-288-5011

亜炭と埋木の名産地「八木山」がわかる
八木山物語
石沢友隆著
八木山にベーブ・ルースがホームランを放った野球場があった。仙台藩領地を切り開いて野球場や公園を造り、県に寄付した富豪八木久兵衛の物語や八木山地区の起こりから現在までをエピソードで綴る。
定価1470円（本体1400円+税）
河北新報出版センター
980-0022 宮城県仙台市青葉区五橋1-2-28
TEL 022-214-3811 FAX 022-227-7666

岩波新書
地の底の笑い話
上野英信著
挿画の山本作兵衛作・炭坑画が世界記憶遺産に登録！
鉱山（ヤマ）の地中深く、カンテラ一つで採掘作業に従事する炭坑夫達。１秒後の生命の保証もない坑内労働の合間に老坑夫たちが語った懐かしい笑い話を元に、その生きざまや蠢きを著者が生々しく描き出す。
新書判　●定価735円（税込）
101-8002 東京都千代田区一ツ橋2丁目5番5号

宮城県三本木町
ふるさとの亜炭
生産量県下一を誇った三本木亜炭の盛衰を鉱物エネルギーの歴史からひもとく名著
A5版　定価1750円
【編集・発行】宮城県三本木町 TEL 0229-52-2111
989-6321 宮城県志田郡三本木町三本木字西沢34

地学団体研究会仙台支部編
気分は宝さがし！
せんだい地学ハイキング
太古の仙台の姿を見つけにルーペを持ってさあ出発！
初心者向けの竜の口渓谷や広瀬川の露頭ウォッチングからマニア向け・茂庭松倉のメノウ化石探しまで、ていねいなルートガイドで足元の古代層を解説。地学ファン必見の書。
序章　さあ出かけよう
第一章　地学ハイキングガイド
第二章　仙台の化石
第三章　仙台の大地の生い立ち
定価 900円（税込）
編集・発行＝地学団体研究会仙台支部

※連絡先等の引用は奥付のまま